



主基地方風俗舞



5月祭事暦

1・15日 月次祭
 午前10時～
 高宮祭
 第二宮・第三宮祭
 宗像護国神社祭(1日)
 午前11時～
 総社祭
 浦安舞奉奏(1日)
 豊栄舞奉奏(15日)

5日 五月・浜宮祭
 午前10時30分～
 浜宮祭
 於=宗像市神湊 浜宮
 午前11時～ 五月祭
 於=宗像市江口 五月宮

27日 沖津宮現地大祭
 午前7時大島港 出港
 於=沖ノ島・沖津宮

春季大祭 齋行

併せて東北地方太平洋沖地震 復興祈願祭

四月一日・二日(金・土)の両日に亘って春季大祭が齋行され、多くの参拝者で賑わいをみせた。

三月二十九日には、早朝より地元総代並びに協力会の奉仕により、注連縄・紙垂の新調、職立て、本殿をはじめ各所の紫幕張等の大祭準備が行われ、翌三十一日午後五時から総社地主祭が同六時からは宵宮祭が齋行され、明日からの大祭が無事齋行される様祈念された。

そして四月一日午前十一時一日祭が齋行され、高向宮司により国家鎮護・皇室安泰・五穀豊穡を祈念する祝詞が奏上され、続いて氏子奉幣使の安部實氏が奉幣詞を奏上された。次いで主基地方風俗舞保存会による昭和天皇御即位大嘗祭に由来する



列立する奉仕員

余滴

既に未曾有の大震災から二か月が経とうとしている。復旧には相当たる月日がかかるかと考えられていた高速道路、鉄道、特に津波に襲われた仙台空港は、当初の予定よりかなりの早さで再開に漕ぎ着けた。今回の迅速なる再開は復興への希望になったのではなからうか▼今、日本国民は、復興を願っており全国の神社においても復興祈願祭が齋行されている。祈りとは最も基本的な信仰であって、誰もが自ずと行っているであろう。信仰とは教えを自分のよりどころとするのだが、今の状況では教えは助け合う心、よりどころは信じる心ではなからうか▼皇居においては陛下が率先して自主節電を続けられ、また避難所や被災地へも行幸啓遊ばされ、被災者の方々をお見舞いになられた。我が国において最も尊い御方であられる陛下が心をひとつにして国難を分かち合いたいとの御聖慮は、国民が一つになる本当に有難い言葉である▼復興作業に従事されている方に、国民ひとりひとりの祈りや願いが通じて冒頭に述べたような再開に繋がったのであろう。ひとつの力が集まれば途轍もない力になると人々は言うが正にその通りであると思う。祈りから助け合い、信じ合う気持ちが生まれ、復興に繋がる▼西日本に住む私達に出来る事のひとつは、復興されるまで祈り、願い続けることではないか。国難を乗り越え、復興した先には以前にも増して美しく新たな日本文化が築きあげられることであろう。(書)

遷宮で結ぶ人の輪心の輪
 第六十二回神宮式年遷宮

神具・装束・授与品

井筒

装束店	〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る フリーダイヤル 0120-075-980
福岡店	〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401 フリーダイヤル 0120-055-092
授与品店	〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23 フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567



浦安舞

氏子奉幣使・安部實氏(写真・左)

参進する奉仕員

「主基地方風俗舞」、続いて玄海中学校女子生徒による「浦安舞」が優雅に奉奏された。

翌二日午前十一時からは二日祭が斎行され海上安全・大漁満足が祈念され、併せ東北地方太平洋沖地震復興祈願祭を斎行、同地震の終息と速やかな復興が祈念された。

祭典後には、みあれ祭等の海洋神事に功労ある各氏子に対し、宮司より感謝状と記念品が贈呈された。

二日祭終了後、第二宮、第

三宮、宗像護国神社へと宮司以下各神職・参列者が参進、各祭場で春祭が斎行された。

宗像護国神社祭では、福岡県護国神社田村豊彦宮司をはじめ、宗像・福津両市の遺族等一〇〇余名が参列する中、護国の英霊をお慰め申上げると共に、恒久平和が祈念された。

また同刻、儀式殿では交通安全講話が斎行され、講話の皆様が今年一年の交通安全も祈念された。

午後二時からは本殿にて献

茶祭が執り行われた。日頃、茶道・南坊流の指導を受けている巫女の代表が、毎年この日に大神様に御茶を奉納する。奉仕者は袱紗捌きも雅やかに御点前を披露し、たてられた御茶は斎主より神前にお供えされた。これを以って三十一日の総社地主祭から始まる春季大祭は滞り無く終了した。

鎮国寺の花まつり

桜花爛漫の中、稚児一五〇名
宗像大社から鎮国寺まで大行進

穏やかな春の陽気に包まれた四月三日(日)、当大社から鎮国寺までの約1kmの間で稚児行列が行われた。親に伴われた稚児約一五〇名が春の宗像路を元気に歩いた。

この「花まつり」は宗像観光協会が主催し、三月二十七日～四月二十八日までの約一ヶ月間開催され、地域の子供たちに両社寺を身近に感じてほしいと、期間中お釈迦様の誕生日である四月八日に近い日

各奉仕者、表彰者は下記の通り

氏子奉幣使 安部 實氏 (宗像市神湊)	主基地方風俗舞奉仕者	舞方 清水 陽介 中野 久志 松井 実 松井徳一郎 石津 典秀 吉田 敏幸 中野 正徳 吉田 光利	歌方 大森可南子 (玄海中学校二年生) 中野 沙菜
-------------------------------	-------------------	--	--

若布献上表彰者	山本 蘭 (〃)
本山 未陽 (〃)	〃 (〃)
浜田 充 (宗像漁協・本所)	三苦 英了 (〃)
遠藤 利男 (宗像漁協・大島支所)	沖西 豊光 (〃)
村田 桂司 (宗像漁協・地ノ島支所)	山下 秀二 (〃)
田畑 徳 (宗像漁協・福岡支所)	中村 忠彦 (鐘崎漁協)
権田 幸年 (〃)	菊池 茂 (宗像漁協・津屋崎支所)
永島 知宏 (〃)	〃 (〃)

曜日に合わせて稚児行列が開催されている。

当日は早朝より参加する親子が当大社に参集し、清明殿で稚児衣装に着装、午前十一時本殿で正式参拝した。

宗像大社氏子青年会、宗像歴史観光ボランティアガイド、ボーイスカウトによる誘



導・警護のもと大行列は子供神輿などの山車や乗馬で列を整え、宗像大社から鎮国寺へと行進した。

多様な花が咲き乱れる鎮国寺の境内に到着すると、立部副住職より法要・法話をいただき花まつりは午後一時に終了した。また本年は、東北地方太平洋沖地震で被災された方々へ配慮し、各種奉祝行事が急遽取りやめとなったものの、両社寺の春の一日は元気な稚児のお陰で賑わいを見せた。

春季奉納剣道大会 〜鍛錬の成果を大神様にご奉告〜

四月三日(日)、恒例の奉納剣道大会が、玄海中学校体育館にて小中生約三百名参加のもと開催された。

開催に先立ち、選手並びに大会関係者は神職からお祓い

を受け、体育館より宗像大社へ遙拝した。引き続き行われた模範演武では、日本剣道形並びに居合道が披露され、緊張感ある動き、演武者の佇まいに剣道本来の姿を見る思いがした。



試合が始まると日頃稽古で鍛えた成果を残らず発揮しようと、声を張り上げて必死に相手に喰らいつく豆剣士達の姿が印象的であった。約五時間に渡る熱戦も午後二時には幕を閉じ、参加者の小中学生は自分の力を出し切った清々しい表情であった。尚、居合道を演武された宗像居合道同好会の皆様は、例年通り中学校での演武終了後、大社へ移動し本殿横にて演武を行い、この一年の成長を大神様に奉告した。



居合道演武

優勝者

団体戦

【小学生】 河東教室

【中学生】

男子 自由ヶ丘中学校

女子 城山中学校

個人戦

【小学生】

1年生 佐尾山 迅(東部)

2年生 荒木 友輔(南部)

3年生 嶋立 将也(東部)

4年生 中原 沙綾(玄辰館)

5年生 荒木 将成(東部)

6年生 阿部 良我(赤間西)

【中学生】

男子 厚 颯(城山)

女子 大和 綾乃(白の里)

第32回

春季奉納吟詠大会

四月九日(土)、春麗らかな

陽気の中、春季恒例の奉納吟詠大会(主催・鶴洲流、宗家・河野鶴聲)が開催された。この大会は昭和五十一年より奉納されており、今回で第三十二回大会を迎える。

午前十一時、当大社本殿に北九州地区を中心に近隣地区から会員六十四名が参集し、正式参拝並びに奉納合吟が行

われた。

合吟では国民道の祖神である宗像大神様に、松口月城先生奉納の「宗像宮」を河野鶴聲宗家以下会員一同で献吟、境内に朗々と響き渡る声に多くの参拝者が暫し足を止め、聴き入る様子が見られた。

献吟後、一同は清明殿へと移動し式典が開会され、会員各々が日頃鍛えた自慢の喉で吟題に沿った吟詠を披露した。午後三時には日程の全てを終了した。

「宗像宮」松口月城

三神鎮座す宗像宮

天孫を擁護して仁徳崇し

神武皇謨之に依って就る

肇國の大業之の中に成る

筑紫之山玄海之海

一山一水皇風を仰ぐ



大島御獄山遺跡発掘調査報告

沖ノ島に並ぶ祭祀遺跡の可能性高まる

宗像市市民活動推進課 郷土文化学習交流室

玄界灘の沖合約60kmに浮かぶ沖ノ島は、田心姫神を祀る沖津宮が鎮座している神聖な島です。また古来より航海の安全を願って長年にわたり国

家祭祀がおこなわれてきました。その痕跡は昭和二十九年から昭和四十六年まで三次にわたる発掘調査がおこなわれ、沖津宮周辺の巨岩のさまざま

現在の研究成果によると、沖ノ島における祭祀は、古墳時代の五世紀から遣唐使の廃止される十世紀まで、約六〇〇年間にわたりおこなわれ、世

が採集されていたことから、大島御獄山遺跡という名で知られていました。同遺跡は島であること、さらに山頂という厳しい立地環境から住居などの生活遺跡以外の遺跡であり、

今回の発掘調査においては、石組みや基壇などの構造物を発見するには至らず、明確な祭祀の痕跡を確認することはできませんでしたが、須恵器と呼ばれる土器の甕が据え置かれた状態で検出されました。これは山頂における甕を使っ



御獄山山頂に鎮座する御獄宮

な場所に祭祀の痕跡が確認されました。発掘された遺物は祭祀遺物という特殊なもので、その場所でもさしく祭祀がおこなわれていたことを示すものです。また、沖ノ島が「海の正倉院」と称されるように金銅製龍頭やカッタガラスなど大陸との交流を示す遺物も出土しました。沖ノ島では祭祀のおこなわれてきた期間も注目されています。

非常に重要です。昨春秋に宗像市大島において沖ノ島以外にも祭祀がおこなわれていたことを示す発見がありました。大島は宗像市の沖合約8kmに浮かぶ福岡県最大の島です。島には宗像大社中津宮が鎮座し、そこには湍津姫神が祀られています。大島の中央に位置する御獄山は標高224mの高さがあり、島の最高峰で中津宮摂社の御獄宮が鎮座しています。御獄山山頂ではこれまで度々遺物

採集されていたことから、大島御獄山遺跡という名で知られていました。同遺跡は島であること、さらに山頂という厳しい立地環境から住居などの生活遺跡以外の遺跡であり、採集されていた一部の遺物のなかに祭祀遺物があったことから、祭祀遺跡として捉えられてきました。しかし、発掘調査がおこなわれていなかったため、時期や規模、沖ノ島との関連性などについては不明でした。仮に御獄山山頂が祭祀遺跡と確認されれば沖ノ島と並んで重要な発見になります。そこで、宗像市教育委員会は宗像大社と共同で平成二十二年九月から遺跡内容確認のために発掘調査をおこないました。発掘調査は地形測量をおこなった後、トレンチという細長い調査区を山頂の四ヶ所に設定して掘り下げをおこないました。発掘調査は当初予定していた期間より大きく延びましたが、予想以上の成果を得ることができ、平成二十三年一月に無事終了しました。

今回の発掘調査においては、石組みや基壇などの構造物を発見するには至らず、明確な祭祀の痕跡を確認することはできませんでしたが、須恵器と呼ばれる土器の甕が据え置かれた状態で検出されました。これは山頂における甕を使っただ何らかの行為を示すものです。遺物は奈良三彩や八陵鏡をはじめ、柔らかい滑石と呼ばれる岩石を削って人や舟、馬などの形を模してつくられた形代と呼ばれるものや、小刀の刀子、矢の先端に付ける鏃などを模した鉄製のミニチュア



出土した多量の滑石製遺物



発掘調査の様子

(雛形)、甕などの青銅製容器、壺や器台、皿等の土器など種類に富んだものが出土しました。

これら大島御嶽山遺跡から出土した遺物は沖ノ島祭祀最終段階である露天祭祀の時期にあたるもので、出土品も露天祭祀の時期である沖ノ島I号遺跡から出土したものと同一のものばかりです。奈良三彩の小壺は少なくとも四個体以上が出土しています。また、人や舟、馬などの滑石製形代は一四〇点余りが出土しこれら

は沖ノ島、大島御嶽山遺跡、宗像大社辺津宮以外では現在のところ確認されておらず、互いの関連性を示す証拠として注目されます。そのほか、山頂にも関わらず遺物量が多いことも特徴のひとつです。滑石製白玉は三〇〇点余りが出土しました。また土器片に至っては相当量が出土しています。このことは山頂で繰り返し祭祀がおこなわれていたことを示すものです。

今回の発掘調査により、新たな問題も浮上してきました。四世紀後半からおこなわれていた沖ノ島における祭祀が突如なぜ露天祭祀の時期に大島でもおこなわれるようになったのでしょうか。その意図はななんだのでしょうか。また、辺津宮でも滑石製遺物が採集されていることから、同時期に辺津宮でも祭祀のおこなわれた可能性が考えられます。現在、報告書の作成に向けて整理作業を進行中です。作業が進むにつれ新たな成果が期待されます。

今この問題も浮上してきました。四世紀後半からおこなわれていた沖ノ島における祭祀が突如なぜ露天祭祀の時期に大島でもおこなわれるようになったのでしょうか。その意図はななんだのでしょうか。また、辺津宮でも滑石製遺物が採集されていることから、同時期に辺津宮でも祭祀のおこなわれた可能性が考えられます。現在、報告書の作成に向けて整理作業を進行中です。作業が進むにつれ新たな成果が期待されます。



心字池清掃

四月中旬、管理員を中心に職員の手により心字池の清掃が行われた。

一昨年の清掃時、清掃に併せて池底二ヶ所にポンプを据え付け、堆積した汚泥等を吸い上げ濾過槽にて処理して池に戻す循環システムを作り上げた。順調に設置目的である下層の水を循環させる事により水質悪化を鈍らせるという効果を上げている。しかし、



池に落ちる樹木の葉は想像以上に多く、システムの効率を上げる為、従来一年に一回だった清掃を昨年引き続き今年も行った。二年に一回だった頃より、当然落ち葉の堆積量も少なく、従来に比べると短期間で作業を終了した。今後、年一回は清掃作業を行う事に決定したが、中には今年中にもう一度清掃作業を行おうとする意見もある。



上:舟型出土の状況
 中:祭祀遺物出土の状況
 下:奈良三彩(小壺)

大島に海洋体験施設「うみんぐ大島」が竣工



去る四月三日(日)、中津宮が鎮座する筑前大島に於いて、海洋体験施設「うみんぐ大島」の竣工式が、福岡県麻生渡知事(当時)を始め、県や市、地元関係者約二百名参列のもと行われた。

同施設は島の南西、渡船ターミナルより徒歩十分の区域に、県の離島振興政策で総事業費十七億八千万円の一大プロジェクトとして、平成十九年に着工、浮桟橋式の釣り堀を始め、シーカヤックや磯観



察体験ゾーン等、大人から子供まで楽しめる、又同時に大島の豊かな自然や景観を十分満喫できる施設となっている。

式典当日は未明の雨も止み、午前十時三十分、大島小学校生徒による磯っ子太鼓が披露され式典が開始、セレモニーでは稚魚の放流を行った後、知事等が釣り堀を体験、釣り上げた鯛を早速刺身にて食され、玄界の海の幸に舌鼓を打たれた。



一般オープンは四月二十九日(祝)、地元地域の活性化が期待されている

新人紹介

4月1日付で、神職1名、巫女2名の職員が新たに加わりましたので、ご紹介致します

- ①名前 ②生年月日 ③出身 ④経歴(学歴) ⑤特技(趣味) ⑥抱負



①神島 亘(かみしま わたる)
 ②昭和49年2月12日(37歳)
 ③宗像市 神湊
 ④県立 宗像高校
 國學院大學 文学部 第一部 神道学科
 太宰府天満宮にて15年奉職
 ⑤野球
 ⑥この度、四月一日付で宗像大社権禰宜を拝命致しました。國學院大學卒業後は、太宰府天満宮で神明奉仕に励んでおりました。太宰府で御指導いただいたことを肝に銘じ一層の努力をしまいる所存でございます。何卒、御指導を賜りますようお願い申し上げます。



①衛藤 愛里(えとう あいり)
 ②平成4年5月29日(18歳)
 ③北九州市若松区高須南
 ④折尾愛真高等学校
 ⑤スポーツ全般、特にテニスは大好きです。中学校・高校ではテニス部に所属していました。
 ⑥憧れていた巫女さんになることが出来、本当に幸せです。巫女という立場に誇りを持ち、笑顔を絶やさず皆様に頼られるような巫女になりたいと思います。



①森 千尋(もり ちひろ)
 ②平成4年9月21日(18歳)
 ③糟屋郡 新宮町
 ④玄界高等学校
 ⑤バスケットをしたり体を動かす事が大好きです。また、音楽を聴くのも好きで、ジャンルは問いません。
 ⑥幼い時から親に連れられ、よく参拝していた大社にご奉仕する事が出来るとは夢にも思っていませんでしたが、自分の長所である明るい性格を活かし、参拝に来られた方々に温かい気持ちになって頂けるような巫女さんになりたいと思います。



みあけ史跡公園南側全景



みあけ史跡公園 建物4



三月十一日に京都府みやこ町から行橋市の博物館や資料館を巡ってきた。三時過ぎに、車のラジオをつけたら、東北地方で大地震が発生し、大津波が次々に襲い街々を呑んでいるという。青森・宮城・岩手・福島

の景勝地と漁港の三陸海岸は壊滅的打撃を受けた。地獄の光景に声も出なかった。そして福島原発も原子炉の崩壊、放射能の飛散、と次から次へと震災は大きくなるばかりである。まさに国難である。日本人が心を一つにして復興に全力をあげなければならぬ。日本の底力を。

さて田淵遺跡のつづきを。調査では主要な遺構の建物跡からは、時代を確定できる遺物は土器以外にとぼしいのである。報告書で調査の担当者は「官衛的大型建物群」の設営時期を確定することができなかった。遺構からの出土土器は、その大型建物の前代の弥生土器の須恵器、似非土師須恵器が

が最も多く出土した。また中世の貿易陶磁器(中国宋代からもたらされた青磁や白磁等)の混入品が含まれている。弥生土器以外の主な出土土器は六世紀後半代、八世紀中頃の須恵器、似非土師須恵器(須恵器のつくり方で焼いた土師器、色は土師器の赤っぽい色調)である。

二・三号溝状遺構。二号溝状遺構直上土器群は、三号建物跡の西端に位置する柱列と同じく西側斜面包含層に覆われており、六世紀中頃〜後半代の須恵器、似非土師須恵器が大量に出土している。六次調査では、西側区画溝を掘り下げたところ、上段の床面から六世紀後半と捉えられる一号柵列跡が確認され、西側区画溝の下層からは、六世紀後半代の須恵器、似非土師須恵器が大量に出土した。四号建物跡は、わずかな出土遺物であるが、六世紀後半代の須恵器が出土している。建物跡の時期は、六世紀後半代と八世紀中頃の土器が含まれることから、この時期のどちらかに納まると考えられる。西側区画溝、四号建物跡、二号、三号溝状遺構は、六世紀後半の土器を伴い、七次調査の一号溝状遺構は八世紀中頃を下限とするため、東側区画溝の埋没は八世紀中頃を溯る。西側斜面包含層は、六世紀中頃〜後半代の須恵器が大量に出土した」と報告で述べられている。

以上の官衛的大型建物群関連遺構及び包含層からの土器の出土状況からいえば、官衛的大型遺物群の造営時期を、

(続)



255

いしただし



八世紀中頃よりは六世紀中頃〜後半代と捉える方が自然と言える。なお本遺跡から土器類は多く出土したが「墨書土器」「須恵器硯」「石帯」「皇朝十二銭」「線袖陶器」「木簡」といった官衛に関する遺物は出土していない(古賀市文化財調査報告書第四六集二〇〇七)

またこの一帯からは鹿部山を望むようにして祭祀も行われたようで、ミニチュア土器・鉄製鏡、ミニチュア鉄斧、舟形、土玉、土勾玉、滑石製玉類もかなり多く発掘されている。また中世と思われる掘立柱の狭い小屋をつくり祭祀を度々行った場所も発掘されている。古代、中世に鹿部山は信仰の対象ともなっていた。



第五九七回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



うきは市 浮羽町 向 則正
うから逝き子らも去りゆき独りみし朝から誰とも口きかずすぐ
寂しい思いの零れる歌。うからには子供も入るので、
初句は(妻の逝き)にし、三句を(独り)のとしてみた。

北九州市 八幡西区 豊田 光子
昨日今日変らぬいのち生き継ぐに戦闘帽の亡夫あゆみ来ぬ
作者の夢に現れる夫は戦時中の若い姿。へ昨日今日生き
継ぐわれの夢に出て戦闘帽の亡き夫寄り来」としてみた。

宗像市 土穴 山本 静子
乗りたれば昨日のタクシーお迎えにあらあらとてユリックス発つ
言葉の順序を入れ換えると分かりやすくなる。(ユリックス
スに迎えに来たるタクシーはあらあら昨日と同じ運転手
さん)。結句は字余りだが作者の気持ちはこれくらいでは。

福津市 若木台 山崎 公俊
国宝と明示される出土品たつた一枚のガラスのむかう
国宝があまりに無造作に展示されているのに驚く作者。
出土品が何なのかが分かると共感しやすい。二句は(明
示されたる)に。

福津市 中央 池浦千鶴子
松の苗防風林に植えられて幹は早曲りて立てり
防風林の松の苗の曲がりに気付いた作者の観察眼に脱
帽。四・五句を(幹は早早風に曲がれり)としたい。

北九州市 八幡西区 遠藤 幸子
ふるさとの春の香なりし蓬草川辺に摘みて水面に浮かべり
故郷を離れ住む作者の望郷の歌と読んだ。結句の作者
の行動が解らなかつたが、川にうかべたのなら(川面
に浮かす)などと。

福岡市 南区 井田有久衣
くれなずむ弥生の空に忘れゆき道行く人も家路へいそぐ
夕焼けから暮れるまでの空の変化に時を忘れ見とれた
作者か。三句以降を(時わすれ気付けば人ら家路を急ぐ)。

福津市 星ヶ丘 佐々木和彦

感覚融合生じるらしも写真のカレー見詰めるうちになまつばと句
感覚融合は辞書に無い言葉。一種の造語と考えることに
する。視覚にさそれれ嗅覚まで刺激を受けた作者が面白い。

宗像市 東旭ヶ丘 天野 玲子
バックミラーのぞけば後にちんまりと坐りていたる亡母の浮かびぬ
ちんまりが絶妙。母の姿を強調する為に二句切れにし
たい。(バックミラーのぞけば浮かぶちんまりと後部
座席に座りぬし妣)妣は一字で亡き母の意。

福津市 若木台 野間 精一
小松左京の「日本沈没」さながらに津波が遡行するわが宮城野を
大津波で亡くなられた方々に哀悼の意を捧げたい。作
者は現実とは思えない津波の映像に心底驚き慄いたの
だ。結句のわがは出身地でなければ再考を。

宗像市 日の里 大和美由紀
花が咲き鳥は囀り猫が来る春の畑に我は草抜く
童話のような楽しい風景。賑やかすぎる感じがあるの
は主語述語の関係の四組が並列にならぶからか。一番
表現したかったのはどこかを考えてみましょう。

宗像市 田久 巻 桔梗
加賀に来てホテルで食はず横丁の魚醬ベースのラーメン啜る
石川県は食べ物の美味しい所だが、魚醬ベースのラー
メンも美味しそうだ。二句は説明的で不要、横丁かラー
メンの描写に音数を使いたい。

宗像市 日の里 秋吉 嘉範
ガンに病み片目を切除勉強し合格メール孫は奈良へ
詠みたいことが多すぎて一首に全部入りきらない。先
ず(癌を病み片目失くせし孫からのメールは受験の合
格知らす)。奈良へ進学することはもう一首別に。

暹者詠
咲き盛るソメイヨシノは散るほかに
すべのあらねば風待たず散る
うめ童女、さくら少年すぎゆきし
里にあらはる臍たけた藤

第五二二回

俳句作品集

宗像市 武丸 白土 凌一
玄海の波高くして足止めや

宗像市 日の里 花田いつ枝
耳納山背負ふ久留米の椿園

編集後記

三月十五日付で広報課
へ異動してまいりま
した。福岡生まれの三十歳。サラリーマン
の家庭で育ち、紆余曲折を経て大社に奉職
し現在に至っております。今後、編集に携
わってまいりますので長い目で成長の程
お見守り下さい▼異動した手始めに、社報
「宗像の歴史について調べてみました▼「宗
像」は、明治二十四年に、他郷で活躍する宗
像出身者へ大社の祭事、郷土の現況を伝え
る目的で発行されました。先の大戦によつ
て休刊となるも、昭和三十四年六月の皇太
子殿下(今上陛下)御成婚奉祝の記念事業
の一環として社報「宗像」として復刊され
現在に至ります。日本国内に止まらず遠く
ヨーロッパは、ドイツの愛読者の元へもお
送りしております▼今後、紙面の更なる充
実を目指し邁進していきたいと思えます
ので宜しくお願い致します。(松)

発行所
宗像大社社務所・宗像会

住所
〒八一一一三五〇五
福岡県宗像市田島三三三
電話
(〇九四〇六二一一三一一)代
(〇九四〇六二一一三一一)
編集人
大塚宗延・松林拓
制作・印刷
ゼネラルアサヒ

毎月1日発行
定価1年送料共 1,000円